

ポスター | 1-20 その他

ポスター

一般心臓病学①

座長:羽根田 紀幸 (どれみクリニック)

Thu. Jul 16, 2015 4:50 PM - 5:26 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

I-P-001~I-P-006

所属正式名称: 羽根田紀幸(どれみクリニック 小児科)

[I-P-001]乳児期に根治術を行った ASD症例の検討

○今井 祐喜¹, 小川 昭正¹, 大橋 直樹², 西川 浩², 福見 大地², 大森 大輔², 江見 美杉², 山本 英範² (1.安城更生病院 小児科, 2.中京病院中京こどもハートセンター 小児循環器科)

Keywords:ASD, 乳児, 手術

【背景】 ASDは一般的に、若年齢での血行動態への影響を及ぼしにくく、手術適応となる例は少ない。【目的】 乳児期までに手術が必要となった ASD症例の検討。【方法】 中京こどもハートセンターで手術を行った ASD、1998~2013年までで確認可能な11例について、診療録を後方視的に検討した。尚、PDA trivial leak合併例は対象に含めた。【結果】 全11例中7例が21trisomy、2例が早産児・慢性肺疾患であった。その他1例は精神発達遅滞を認めるものの主要な内因性疾患・染色体異常は認めなかった。1例は ASD術後も心不全が遷延し、その後肝血管腫が判明し手術を行った。これにより心不全は改善した。術前の心臓カテーテル検査は8例で実施した。Pp/Ps中央値0.84(0.65~1.0)・酸素負荷後0.62(0.58~0.92)、Qp/Qs1.5(1.2~2.6)・酸素負荷後2.4(1.3~3.0)、Rp8.5(1.3~11.0)であった。心臓カテーテル検査で severe PHと判断した2例で、手術適応に肺生検を参考とした。手術不適応と判断した症例は存在しなかった。手術実施時期は生後4ヵ月(1~13)であった。術後は全症例で在酸素療法導入、9例で肺血管拡張薬導入した。現在も肺高血圧治療を行っている症例は4例であり、3例は術後1.5~3年以内で CLD2例、21trisomy1例であった。残る1例は術前 severe PHで肺生検を行った21trisomyであり、術後8年経過していた。【考察】 未熟児、21trisomy児に合併した ASDは、早期に手術が必要になる可能性があり注意する必要がある。それらに該当しない ASD例が有症状となった場合、心臓以外の短絡病変も念頭におく必要がある。